

賀川豊彦

全ての人々の幸福願う



人々の幸せと平和を願って活動した賀川豊彦

インタビュー

徳島で幼少年期を過ごした社会運動家・賀川豊彦(1888~1960年)は、生前3度もノーベル平和賞候補になるなど、世界平和を訴え続けた人です。最近の研究では、50年にドイツで、戦争放棄をうたった日本国憲法の意義を講演していたことが、当時の現地の新聞で確認されました。

Q 賀川は徳島とどんな関わりがあったのですか。

A 賀川は神戸生まれですが、両親が相次いで亡くなったため、4歳のときに父親の出身地・堀江村(現在の鳴門市大麻町)に引き取られました。母親が本妻ではなかったため、つらい境遇に置かれていたようですが、亡くなるまで徳島を古里と懐かしみ、心のよ

りどころとしていたといわれます。旧制徳島中学校在学中にキリスト教と出会い、東京の神学校へ進学しました。

Q 徳島を離れてからはどうしたのですか。

A キリスト教を学んだ後、全ての人々の幸福を願った賀川は、神戸の貧しい人たちの中で暮らし、生活の改善に力を尽くします。全国各地で労働運動や協同組合運動、学校設立にも取り組みました。友愛の精神を持って助け合うことで、不幸をなくそうとしたのです。世界平和のために働いたのもそうした活動の一つでした。

Q 賀川は世界平和のためにどんなことをしましたか。

A 太平洋戦争前から世界各国を訪れ、戦争のない世界の実現を訴えました。戦後もいち早く国際平和協会を立ち上げ、軍備撤廃・世界連邦設立を働

きかけました。

Q ほかにいろいろな分野で活躍したようですね。

A 100万部を超えるベストセラーとなった自伝的小説「死線を越えて」をはじめ、多くの著作を残した文筆家でもありました。ノーベル文学賞候補にも2回推されています。また、1923年に関東大震災が起きると被災者救援に奔走し、ボランティアの先駆けともなりました。

Q そんな業績は今でも高く評価されていますか。

A 賀川の提唱した考えが、当時はもちろん現在の社会でも大きな意義を持つと考える人は少なくありません。2002年に設立された鳴門市賀川豊彦記念館などを中心に、賀川の足跡を詳しく紹介し、さらに役立てていこうとする動きが各地で広がっています。